

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。めざせ、均等待遇。なぐさの差別！ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

社員を馬鹿にするのもいい加減にしろ

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3750
17年4月28日(金)
・Fax 095-828-1953

おはようございます。
4月20日は郵政記念日
でした。永年勤続表彰及び
業務・営業表彰を授与され
た社員の皆様、誠におめで
とございます。

さて、その郵政記念日に
日本郵政は、2017年3
月連結決算で3200億円
と見込んでいた最終「当期」
利益が、400億の赤字と
なる見通しとなったと発表
しました。
これを受けてマスコミで
は、

赤字400億円、豪損失計
上
巨額損失 成長シナリオ
誤算 復興財源に影響も
甘い海外戦略 豪社買収
時に疑問の声
当初から「高値つかみ」の
見方 巨額損失見通し
等、厳しい見出しで報じ
ました。
今回の事案の概要と私た
ち社員への影響を、25日
に開かれた記者会見での経
営陣の発言を引用しながら

説明します。

まず、赤字決算となった
トール社の買収に関しての
社長の感想です。

「海外を攻める一石を打
つたという意味で1勝だが
買収価格が高かったのは1
敗で、1勝1敗だった。長
門正貢社長は会見で買収を
こう結論づけています。会
見では「計算間違えもあつ
て、1敗と、同じ質量じゃ
ないかもしれないかもしれ
ぬ、1勝1敗というのが正
直な印象です」と述べてい
ます。

素人には「4003億円」
を損失として計上すること
になったのにもかかわらず、
1勝1敗と何故言えるのか
わかりません。日本郵便の
利益は220億円程度です。

トール・ホールディングス
トール・ホールディングスとは、オーストラ
リアの大手物流会社で、アジア太平洋を中心に5
0か国以上で事業を展開。従業員は4万人。
株式上場を目前にした日本郵政と郵便が、20
15年5月に買収し子会社となった。日本郵便
は、中期経営計画の中でも国際物流への進出を
表明し、その足掛かりとなるはずだった。

20年分弱の利益を損失し
ておいて「計算間違いもあ
つて」と言われて納得で
きる社員はないでしょう。

また「赤字決算ではござ
いませぬ、キャッシュフロ
ーには影響もなく利益剰余
金も3兆1000億円超
資本剰余金も4兆円。純資
産も14兆8000億円弱
と十分にございますし(中
略)、期末配当予想につき
ましては先の中期経営計画
でコミットした配当性向5
割以上を履行し、1株当た
り25円に据え置く予定で
ございます。」とも発言し
ています。

私たちが怒るのは、この
4003億円の損失が、会
社の経営基盤を揺るがすこ
とは無いと言っている点で
す。

会社は17春闘での組合
要求に対して「黒字といつ
てもギリギリの水準であり、
赤字にするわけにはいかな
い、処遇改善に回せる原資
はない、と主張しました。
正社員に対する特別加算に
ついて「限った措置」で
あり毎年行なうものではな
い、と内向きの姿勢を通し
たほか、日本郵便について
郵便物数の減少傾向が続く
一方、人件費(賃金単価)
の上昇があり、本年6月に

トール社買収経緯と赤字転落に関して の経営陣の発言

日本郵政は西室泰三氏が社長を務めて
いた2年前、国際物流事業の強化によつ
てグループの成長を目指し、約6200
億円でトール社を買収。しかし、資源価
格の下落による豪経済の減速でトール社
の業績は急速に悪化した。25日に記者
会見した長門正貢社長は、赤字転落につ
いて「大変重く受け止めている」と陳謝。
その上で「負の遺産を一扫し、再出発へ
のステップとしたい」と語った。「また
買収価格は少し高かったかもしれない」
と見通しの甘さを認め、同席した日本郵
便の横山邦男社長は「買収を急ぎ過ぎ、
日本郵便との相乗効果が不明確だった」
と振り返った

は一部料金改定を行い一定
の増収効果を見込めるもの
の、郵便物数の減少の影響
を解消する効果は期待でき
ない。

金融部門としては、ゆう
ちょ、かんぽともにマイナ
ス金利の影響を第1に上げ
(中略)ここでも「厳しい」
と強調する姿勢に終始しま
した。

この17春闘での回答と
今回の会見での発言は同じ
会社の事でしょうか。

社員には「厳しい厳しい」
と言い賃上げ要求に対して
ゼロ回答を行いながら、一
般向けには4003億の損
失位どうと言ふ事は無いと
言つ会社に対して非常に憤
りを覚えます。

せび社員が納得する、説
明責任を果たしてもらいた
いものです。

のれん代

企業が別の企業を買収する場合、対象となる企業の純資産額で買い取ることが
できるケースはほとんどない。売り手は出来るだけ高く売却しようとする
ので、何らかの形でプレミアムがつくことが多い。のれん代とは、買収され
た企業の純資産額と実際の買収金額との差額の事をさす。

トール者の場合にはのれん代が約4700億円に達しており、この金額を20
年かけて均等に償却することになっていた。2016年3月期決算における
トール者ののれん代は約4100億円であり、4000億円を一括償却する
ということは、これをすべて損失として計上することを意味する。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-山本, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-高田, ゆうちよ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。